

# トビウオ通信 (R4 第2号)

<https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-23-4806)

## 《令和3年(2021年)の島根県漁業の動向》

島根県の漁獲統計システムにより集計した県内の漁業協同組合の漁獲統計資料(属人)などから、令和3年1月～12月における島根県漁業の動向を取りまとめました(集計対象は海面の漁船漁業のみ)。

### 全体 … 漁獲量・生産額とも前年並み

令和3年の島根県(属人)の総漁獲量は8万9千トンで前年の100%(平年比85%)、総生産額は151億円で前年の97%(平年比81%)でした(表1、図2、3)。総漁獲量は前年を維持、総生産額は4億円減少し、総生産額は過去5年で最も低い年となりました。

漁業種類別の構成比は、漁獲量ではまき網が全体の81%、定置網が5%、小型機船底びき網(かけまわし)が4%、沖合底びき網2そうびきが3%、べにずわいがにかごが3%となりました(図2)。生産額ではまき網が全体の43%、定置網が11%、小型機船底びき網(かけまわし)が10%、沖合底びき網2そうびきが9%、べにずわいがにかごが8%となりました(図3)。

魚種別漁獲量の上位5種はマイワシ(2万9千トン、平年比139%)、サバ類(1万1千トン、平年比49%)、マアジ(1万トン、平年比46%)、ウルメイワシ(1万トン、平年比165%)、ブリ(8千トン、平年比74%)となりました(図1)。

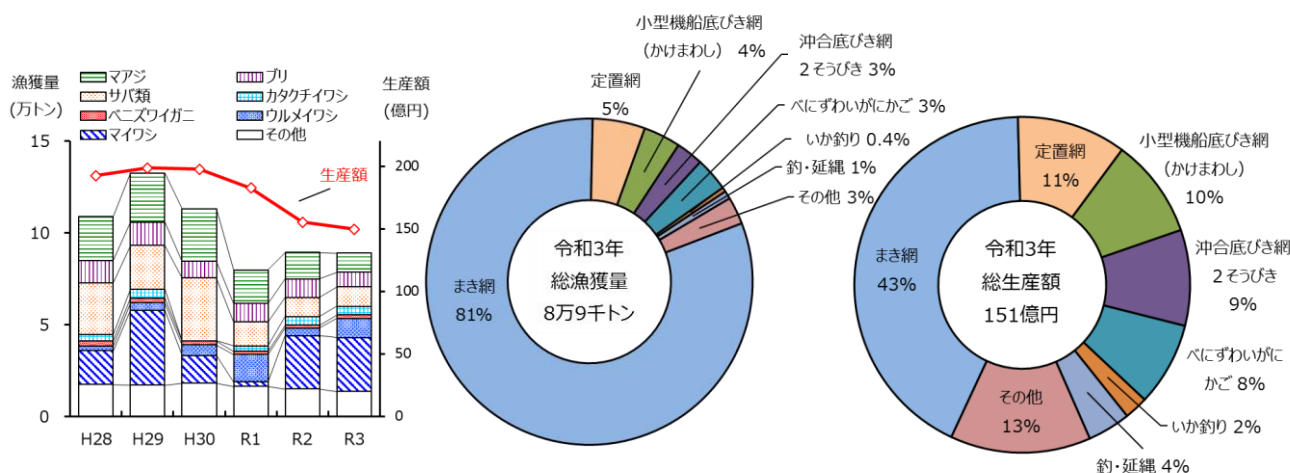


図1 総漁獲量・総生産額の推移

図2 漁業種類別漁獲量の割合

図3 漁業種類別生産額の割合

#### <文中の語句説明>

- 👉 令和3年の漁獲量・生産額及び平年比は島根県内の全地区、全経営体を対象に集計していますが、沖合底びき網2そうびきの魚種別統計は実質的に県外を根拠としている1経営体を除いた数値と比較しています。
- 👉 「前年」は令和2年の数値、「平年」は過去5年(平成28年～令和2年)、沖合底びき網2そうびきのみ過去10年(平成23年～令和2年)の平均値を指します。
- 👉 平年との比較は、平年比が120%より高い場合は「平年を上回る」、平年比80～120%は「平年並み」、平年比が80%より低い場合は「平年を下回る」としています。

## まき網 ……中型まき網 1 船団あたりの漁獲量は前年の 113%・生産額は前年の 105%

本県の基幹漁業の一つである「まき網」には、中型まき網や大中型まき網などがあります。これらは主にマアジ、サバ類、イワシ類などの浮魚（うきうお）を漁獲対象としています。

令和3年のまき網全体の漁獲量は7万2千トンで前年の101%（平年比87%）、生産額は64億2千万円で前年の94%（平年比81%）でした。

まき網のうち、大半を占める中型まき網の漁獲量は6万7千トンで、前年の105%（平年比91%）、生産額は55億円で前年の97%（平年比83%）でした（図4）。前年に比べて、マイワシ及びウルメイワシの漁獲量は増加しましたが、マアジ・サバ類の漁獲量の減少が3年続いており、その影響で生産額は減少傾向にあります。中型まき網1船団あたりの漁獲量は6千7百トンで、前年の113%（平年比99%）、生産額は5億5千万円で、前年の105%（平年比91%）とともに平年並みでした。

中型まき網の魚種別漁獲量の上位5種はマイワシ（平年比145%）、ウルメイワシ（平年比163%）、マアジ（平年比46%）、サバ類（平年比42%）、ブリ（平年比90%）となりました（図4）。

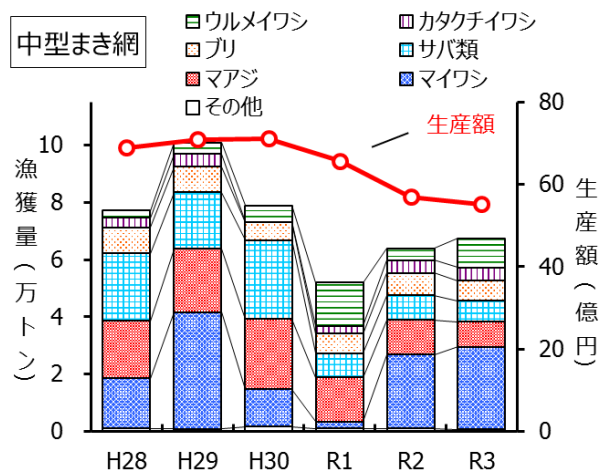


図4 中型まき網による魚種別漁獲量及び生産額の推移

## 沖合底びき網(2 そうびき) ……1 船団あたりの漁獲量は前年の 95%・生産額は前年の 111%

沖合底びき網(2 そうびき)は2隻の漁船で網を曳き、カレイ類、アンコウ類、アカムツ（地方名ノドグロ）など海底付近に生息する魚介類を漁獲対象としています。

令和3年の漁獲量は2千4百トンで、前年の76%（平年比57%）、生産額は13億9千万円で前年の89%（平年比69%）でした。1船団あたりの漁獲量は600トンで、前年の95%（平年比97%）、生産額は3億5千万円で前年の111%（平年比117%）とともに平年並みでした。

石見地区における魚種別漁獲量の上位5種はケンサキイカ（平年比190%）、キダイ（平年比110%）、アカムツ（平年比116%）、アナゴ・ハモ類（平年比83%）、マトウダイ（平年比173%）となりました（図5）。

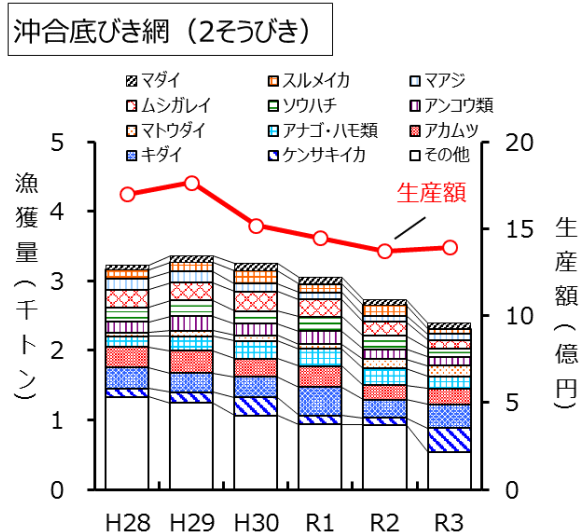


図5 石見地区の沖合底びき網(2 そうびき)による魚種別漁獲量及び生産額の推移

**小型機船底びき網(かけまわし)・・・1隻あたりの漁獲量は前年の101%・生産額は前年の98%**

小型機船底びき網(かけまわし)は、1隻の漁船で操業し、カレイ類、ニギス、タイ類など海底付近に生息する魚介類を漁獲対象としています。

令和3年の漁獲量は3千3百トンで、前年の97%(平年比88%)、生産額は14億5千万円で、前年の94%(同85%)でした(図6)。1隻あたりの漁獲量は86トンで前年の101%(平年比96%)、生産額は3千8百万円で前年の98%(平年比92%)とともに平年並みでした。

魚種別漁獲量の上位5種はソウハチ(平年比86%)、アカガレイ(平年比108%)、アンコウ類(平年比97%)、アナゴ・ハモ類(平年比96%)、マトウダイ(平年比247%)となりました(図6)。

小型機船底びき網(かけまわし)

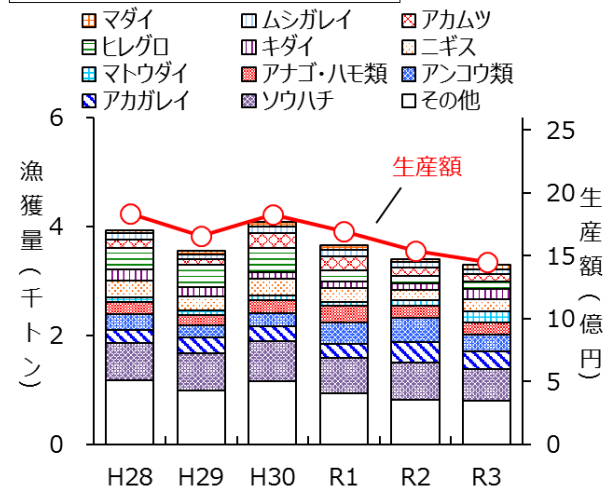


図6 小型機船底びき網(かけまわし)による魚種別漁獲量及び生産量の推移

**定置網・・・大型定置網1経営体あたりの漁獲量は前年の93%・生産額は前年の88%**

定置網(大型定置網・小型定置網・底建網)は魚の通り道に網を設置し、来遊してくる魚を漁獲する漁法で、マアジ、ブリ、サバ類、イカ類などを漁獲対象としています。

令和3年の漁獲量は4千6百トンで、前年の91%(平年比78%)、生産額は15億9千万円で、前年の87%(平年比77%)でした(図7)。また、大型定置網の1経営体あたりの漁獲量は203トンで前年の93%(平年比81%)、生産額は7千万円で前年の88%(平年比77%)でした。

出雲地区の漁獲量は3千2百トン(平年比83%)で平年並みでした。石見地区は685トン(平年比71%)、隠岐地区は750トン(平年比68%)でいずれも平年を下回りました。

魚種別漁獲量の上位3種は、出雲地区ではサワラ類(平年比90%)、マアジ(平年比85%)、ブリ(平年比48%)となりました。石見地区ではマアジ(平年比93%)、サバ類(平年比64%)、ケンサキイカ(平年比50%)となりました。隠岐地区ではブリ(平年比61%)、マアジ(平年比46%)、スルメイカ(平年比179%)となりました。

定置網

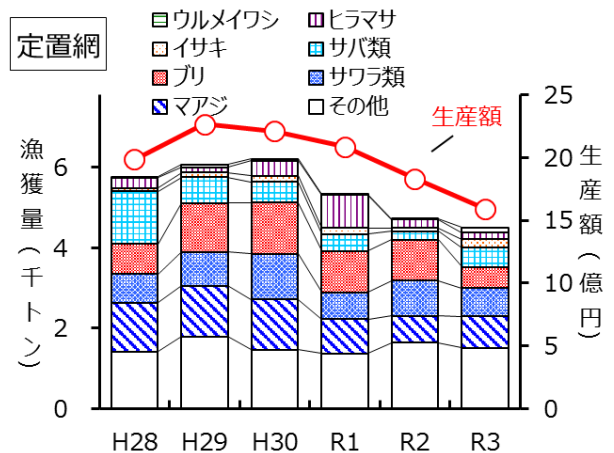


図7 定置網による魚種別漁獲量及び生産額の推移

## 釣り・延縄 … 漁獲量は前年の91%・生産額は前年の99%

釣り・延縄の令和3年の漁獲量は709トンで、前年の91%（平年比75%）、生産額は6億2千万円で前年の99%（平年比76%）でした（図8）。

出雲地区の漁獲量は283トン（平年比66%）、石見地区は232トン（平年比77%）でともに平年を下回り、隠岐地区は194トン（平年比90%）で平年並みでした。

魚種別漁獲量の上位3種は、出雲地区ではブリ（平年比63%）、サワラ類（平年比47%）、キダイ（平年比128%）、石見地区ではヒラマサ（平年比99%）、ブリ（平年比56%）、アマダイ（平年比84%）、隠岐地区ではカサゴ・メバル類（平年比110%）、ブリ（平年比73%）、クロマグロ（平年比168%）となりました。

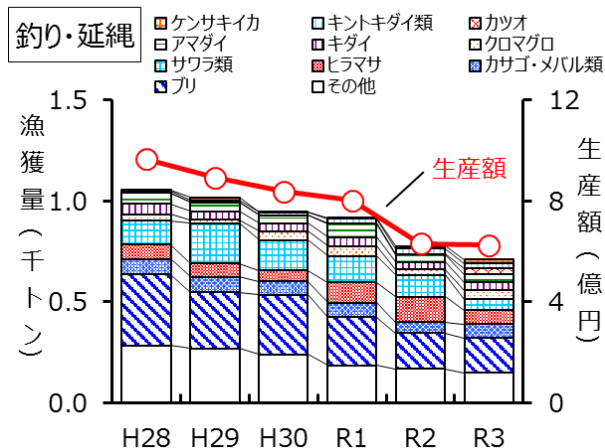


図8 釣り・延縄による魚種別漁獲量及び生産額の推移

## いか釣り … ケンサキイカの漁獲量は前年の93%・スルメイカの漁獲量は前年の84%

いか釣りは名前の示すとおりのスルメイカやケンサキイカなどのイカ類が漁獲対象で、本県では夜に集魚灯（漁火）によりイカを集める夜釣りが主流です。

令和3年の漁獲量は392トンで、前年の90%（平年比63%）、生産額は3億4千万円で前年の85%（平年比60%）とともに平年を下回りました（図9）。

魚種別の漁獲量の動向は、ケンサキイカは平年比48%、スルメイカは平年比91%、ヤリイカは平年比149%でした。

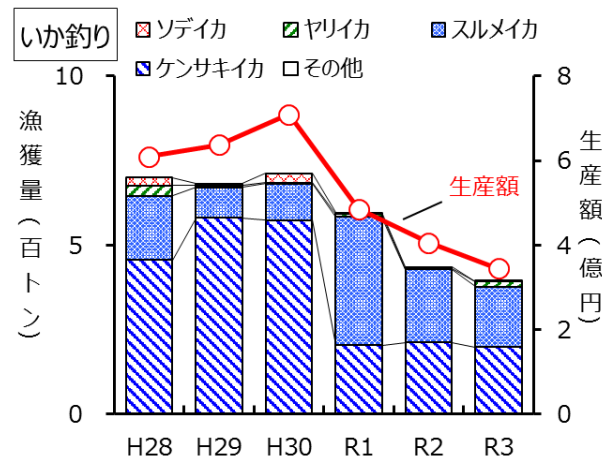


図9 いか釣りによる魚種別漁獲量及び生産額の推移

※ 各漁業の概要や「トビウオ通信」のバックナンバーについては島根県水産技術センターのホームページをご覧ください。  
 ( <https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> )

表1 令和3年の県内主要漁業の海区別漁獲量・生産額

漁業種類	海区	漁獲量※			生産額※			1ヶ統あたり漁獲量※			1ヶ統あたり生産額※		
		量(トン)	平年比	前年比	金額(百万円)	平年比	前年比	量(トン)	平年比	漁模様	金額(百万円)	平年比	漁模様
すべての漁船漁業	全県	89,209	85%	100%	15,112	81%	97%	—	—	—	—	—	—
中型まき網	石見	2,721	52%	114%	483	54%	85%	1,360	77%	▲	242	80%	○
	隠岐	64,739	93%	105%	5,034	87%	98%	8,092	94%	○	629	87%	○
沖合底びき網2そうびき	石見	2,400	57%	76%	1,394	69%	89%	600	97%	○	349	117%	○
小型機船底びき網 (かけまわし)	石見	3,034	85%	93%	1,324	82%	92%	88	97%	○	38	93%	○
定置網 ※※	出雲	3,198	83%	90%	1,187	81%	90%	224	83%	○	83	80%	○
	石見	685	71%	99%	159	57%	68%	160	75%	▲	36	60%	▲
	隠岐	750	68%	90%	247	77%	90%	172	77%	▲	59	81%	○
釣り・延縄	出雲	283	66%	86%	220	75%	96%	—	—	—	—	—	—
	石見	232	77%	91%	204	83%	112%	—	—	—	—	—	—
	隠岐	194	90%	102%	201	71%	93%	—	—	—	—	—	—
いか釣り	出雲	123	54%	93%	127	53%	80%	—	—	—	—	—	—
	石見	115	74%	125%	124	75%	102%	—	—	—	—	—	—
	隠岐	154	63%	73%	94	57%	75%	—	—	—	—	—	—

※ 全体の漁獲量・生産額・平年比は県内の全漁業協同組合・全経営体が対象。

平年比: 過去5年(平成28年～令和2年)の平均値との比較、沖合底びき網2そうびきのみ過去10年(平成23年～令和2年)

漁模様: ◎平年を上回る、○平年並み、▲平年を下回る

※※定置網の1経営体あたり漁獲量・生産額は集計対象期間(平成28年～令和3年)に操業実績のある大型定置網のみを対象に算出。